

芦屋市三条町地区防災計画

土砂災害の避難編



令和4年（2022年）3月

三条町自治会

目次

- (1) 芦屋市三条町の概要と地区防災計画の対象
 - (2) 三条町で想定される土砂災害
 - (3) 土砂災害の種類と予兆
 - (3) 三条町防災まちあるき
 - (4) 三条町防災マップ
 - (5) 警戒レベル別の避難行動
 - (6) 土砂災害での避難の方法
 - (7) 土砂災害での在宅避難
 - (8) 土砂災害からの避難のポイント
 - (9) 近年の豪雨の際の被害や現象
 - (11) 土砂災害時の避難行動確認フロー
 - (13) 各自の土砂災害時の避難行動
 - (14) 災害時の情報入手
 - (15) 今後必要な取り組み
- 【参考】 芦屋市内での洪水の想定

芦屋市三条町の概要と 地区防災計画の対象

芦屋市三条町は六甲山の南麓、芦屋川中流右岸に位置し、芦屋山手に属する阪神間有数の住宅地です。地域内を山手幹線、阪急電鉄神戸本線が東西に横切っています。三条町内には多くの寺社仏閣が立地しているなど、地域資源に恵まれた風光明媚な地域です。

三条町の人口は2,119人、世帯数は961世帯、高齢化率は24.16%（それぞれ2021年11月1日現在）です。芦屋市の高齢化率29.56%よりも相対的に低く、若い方々も比較的多くお住まいであることから、若い方々の防災活動への参画が求められます。

芦屋市三条町の一部は土砂災害による被害が想定されています。全国的にも土砂災害による被害が後を絶たず、土砂災害からの避難のあり方を検討することは喫緊の課題であることから、芦屋市三条町地区防災計画では、土砂災害からの避難のあり方について記載しています。

対象となるハザードと テーマ	土砂災害からの避難
地区防災計画の目的	<ul style="list-style-type: none">①芦屋市三条町の防災資源と土砂災害時の危険箇所や今後必要な防災に関する取り組みについて示す。②芦屋市三条町における土砂災害の発生の恐れがある際の避難のあり方について周知する。③各自の土砂災害時の避難行動について検討する。

三条町で想定される土砂災害

芦屋市三条町は、山手中学校の南側のエリアで土砂災害警戒区域（イエローゾーン）が含まれています。しのき谷付近には、土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）が含まれています。特に、しのき谷川からの土砂災害や内水氾濫に対して備える必要があります。このことから、地域内で土砂災害による被害が想定される箇所が含まれているため、土砂災害への対策が必要となります。

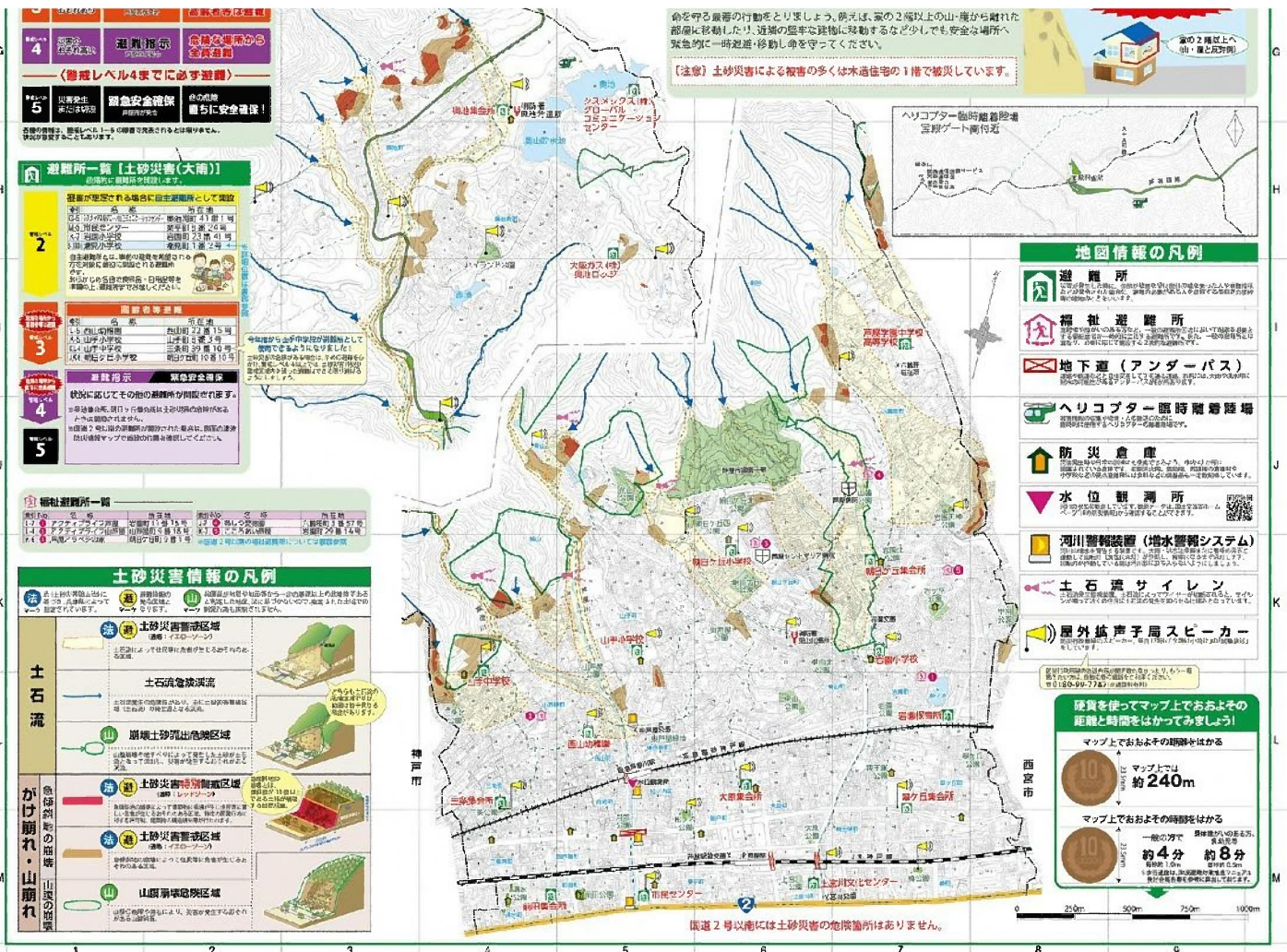


図1 芦屋市土砂災害防災情報マップ（抜粋版）（2021年6月発行）

土砂災害の種類と予兆

土砂災害は「がけ崩れ・山崩れ」、「土石流」、「地すべり」の3つの種類に分類されます。

「がけ崩れ・山崩れ」とは、雨水がしみ込んで、柔らかくなった斜面が急に崩れ落ちる現象のことです。斜面にひび割れができる、わき水の量が増える、がけから小石が落ちてくるなどの予兆があるとされていますが、こうした予兆が「がけ崩れ・山崩れ」が発生する前に必ず起こるとは限りません。

「土石流」とは、大雨などによって、山腹や谷川の石や土砂が一気に下流へ押し流される現象のことです。雨が降り続けているのに川の水位が下がる、山鳴りの音が聞こえてくる、川が濁ったり流木がまざるなどの予兆があるとされていますが、こうした予兆が「土石流」が発生する前に必ず起こるとは限りません。

「地すべり」とは、地盤が弱い土地に豪雨が降り、ゆるくなった斜面の一部が、地下水の影響と重力でゆっくり下へ動く現象のことです。

芦屋市全域には「地すべり」の危険箇所はありませんが、芦屋市三条町には「がけ崩れ・山崩れ」と「土石流」の危険箇所が含まれていることから、「がけ崩れ・山崩れ」と「土石流」への対応が必要となります。



図2 土石流のイメージ図
(土砂災害防止広報センターより抜粋)



図3 がけ崩れのイメージ図
(土砂災害防止広報センターより抜粋)

三条町防災まちあるき（1）

令和3年（2021年）12月11日（土）に三条町にお住まいの方々とともに防災まちあるきと意見交換を行い、芦屋市三条町の防災資源、災害時の危険箇所、防災まち歩きを踏まえた今後必要な取り組みについて検討してまいりました。

次のページでは、三条町でのまちあるきで明らかとなった防災資源、災害時の危険箇所、まちあるきを踏まえた今後必要となる取り組み、防災まちあるきで作成した防災マップを示しています。

災害時の危険箇所はできるだけ減らしていくとともに、今後の取り組みについて地域が一丸となって進めていく必要があります。



図4 三条町防災まちあるき・意見交換の様子

三条町防災まちあるき（2）

芦屋市三条町の防災資源

- 市の指定避難所ではないが、隣接する甲南女子中高を避難場所に活用可能（裏門から避難可能）。
- 甲南女子中学・高校の正門から入ると急な階段があるため、裏門を開けてもらい、東西方向の避難ができればよい。
- 山手中学校を避難場所に活用可能（西門から正門を通じて避難可能）。

災害時の危険箇所

- 山側から下り坂は急な箇所のため、高齢者、子供が急いで避難するのは危ない。
- 冬場に路面が凍結したり、警報が出た時に三条北公園周辺、 土砂災害警戒区域 の道を必ず通らなければならず、どの道を通ればよいかわからない。
- 側溝の水が溢れている状態では、西山幼稚園に向かう道はどこも危険、特に夜間は危険である。
- 見通しの悪い所に車が通るため、子供が危ない。
- 山手中学校の西門の小道に防災ボックスがあるものの、擁壁が崩れると危険である。
- 小学校の通学路は急阪で、階段を降りると狭くて危ない。

今後必要となる取り組み（まちあるき参加者からの意見）

- 南北方向の道が急勾配で蓋のない側溝があり、街灯も少ないため、夜間の避難は危険である。
- 側溝が溢れてから避難すると二次災害に巻き込まれる危険があり、特に土砂災害警戒区域内の住民は早い避難を心掛ける必要がある。
- 避難路はできるだけ東西方向を利用して避難する。
- 芦屋市は、明るいうちに避難所を開設する方針である。
- エリア外の親戚宅も避難所となり得るため、指定避難所は最終手段と考え、予め避難先を考えておく必要がある。
- どうしても避難できない状況になれば、建物の一番高い所の崖から離れた場所に避難する。事前準備として、自宅周辺の危険箇所をチェックしてオリジナルな避難計画を立てておく必要がある。

警戒レベル別の避難行動

避難とは、避難所に行くことだけではありません。災害という「難」から確実に「避」けることができるように、**自らが率先して判断し、適切な行動を取ること**です。

下記に気象庁や市役所から発令される警戒レベルと避難に関する情報を示しています。警戒レベル3「高齢者等避難」が発令されれば、高齢者等ひとりで避難することが難しい方はこのタイミングで家族や地域の方々と協力して避難する合図です。警戒レベル4「避難指示」が発令されると、危険な場所から全員が避難する合図です。これらの情報を目安にして、各自が避難するタイミングや取るべき行動を考えていきましょう。

警戒レベル	行動を促す情報	住民が取るべき行動	状況
5	緊急安全確保 (芦屋市が発令)	命の危険 直ちに安全確保!	災害発生又は切迫
4	避難指示 (芦屋市が発令)	危険な場所から 全員避難	災害のおそれ高い
3	高齢者等避難 (芦屋市が発令)	危険な場所から 高齢者等は避難	災害のおそれあり
2	大雨・洪水・ 高潮注意報 (気象庁が発表)	自らの避難行動 を確認	気象状況悪化
1	早期注意情報 (気象庁が発表)	災害への心構え を高める	今後気象状況悪化 のおそれ

図6 警戒レベル別の避難情報と住民が取るべき行動

土砂災害での避難の方法

避難には、主に「在宅避難」、「立退き避難」、「屋内安全確保」という方法があります。ご自身のお住まいの形態や置かれる状況などによって適切な避難の方法を選択する必要があります。

「在宅避難」や「屋内安全確保」に少しでも心配を持たれている方は、早めに「立退き避難」を選択してください。

「立退き避難」では、市が指定している避難場所だけではなく、兄弟や親戚の家、ホテルなど複数の避難場所を決めておくことが重要です。

災害が発生する恐れがあっても、各自が安心感を保てる環境下で「避難」できる方法を選択することが大切です。

【在宅避難】

自宅に災害の危険がない場合は、自宅での避難が可能です。ただし、備蓄食料があること、ライフラインが途絶して対応できることなどが重要です。

【立退き避難】

安全な場所にある親戚・知人宅や避難所といった自宅以外の場所への避難方法です。

【屋内安全確保】

自宅等に浸水の危険性がありますが、自らの判断で上階への避難や高層階にとどまること等により、計画的に屋内で身の安全を確保する避難方法です。

土砂災害での在宅避難

在宅避難には多くのメリットがある一方で、デメリットもあります。在宅避難を希望される方は、在宅避難のデメリットを減らすための事前の取り組みを行うことが大切です。

在宅避難の主なメリット

- ・ 住み慣れた場所で避難生活を送ることができる。
- ・ 感染症のリスクが少ない。
→ 新型コロナ禍においては、大人数が新型コロナウイルスに感染（クラスターが発生）する心配が少ない。
- ・ プライバシーが確保される。
- ・ ペットと気兼ねなく一緒にいられる。
- ・ 日常生活（通勤や通学）を再開しやすい。

在宅避難の主なデメリットと事前の取り組み

- ・ 食料などが保管されておらず生活ができない。
- ・ ライフラインが途絶えてしまい生活ができない。
→ 食料やライフラインが途絶えたことを前提に備蓄を見直す。
- ・ 外部支援の手が入りづらい。
- ・ 正確な情報が入手しづらい。
→ 正確な被害情報や生活情報を手に入れる方法を考える。
（避難所は被害情報や生活情報が収集しやすい。）

在宅避難時の注意事項

- ・ 排水設備の安全確認が取れるまで水を流さない。
- ・ ゴミは収集が再開するまで自宅に保管する。
- ・ 水道が止まっている時は蛇口を閉める。
- ・ 停電時はコンセントやブレーカーを落とす。
- ・ 近所や管理者に安否や行き先を伝える。
- ・ 指定避難所（防災拠点）に積極的に支援を求める。

土砂災害からの避難のポイント

土砂災害からの避難は事前の準備が必要です。特に以下に示している点を検討しながら、避難行動をあらかじめ決めておきましょう。

(1) 「いつ」逃げるのか？

わずかな時間に集中的に雨が降ったため、避難のタイミングを逸するケースが目立っているため、避難を実際に行動に移すためのきっかけになる「避難スイッチ」を考えることが大切です。「避難スイッチ」は気象に関する情報や自治体からの避難に関する情報だけではなく、身近な異変、過去の災害時の現象、人からの呼びかけなども含まれます。

(2) 「どこへ」逃げるのか？

土砂災害の危険性が迫っている時には「ベスト」な避難場所にたどり着けそうにない状況になっていることも想定されます。そのため、最善の避難場所だけではなく、次善の避難場所も検討するなど複数の避難場所を検討することが大切です。

土砂災害の被害が想定される中で、実際に避難しても、結果的には被害が皆無だったことはよくあることです。

たとえ被害が予想されていても、実際には被害がなかったという「空振り」だったとしても、事前に避難した人や地区は、将来の本番に備えるため、皆の手本として、「素振り」(予行練習やトレーニング)を実施したと捉えるべきです。

近年の豪雨の際の被害や現象

芦屋市三条町での近年の豪雨の被害や現象を示しています。過去の被害や現象を避難を考える目安にできますが、これらにとらわれることなく、率先して避難を行ってください。

道路	<ul style="list-style-type: none">● 西側の道は急な坂で、交通量もあるので雨が降ると滑りやすい。● 芦屋市で1時間100ミリの雨が降った時、甲南女子校に通じる急坂が、急流のようになり歩けなかった。● 雨が続くと土が歩道に積り、三条公園南側の歩道がかなり滑りやすくなる。● 東側の階段は少しの雨でも溢れている。● 坂道を通る水量が増した。坂道の道路にまで冠水し急流となる。● 路面も絶えず水が流れ道路全体が川のような状態だった。
側溝	<ul style="list-style-type: none">● 側溝の水が溢れ始めた。● 溝にごみや落葉が詰まって水が流れにくく溢れやすい。● 三条北公園と南側の家の東側の溝の流れが異常に早く、大きな音で怖さを感じる。● 近くの溝の曲がり角が吹き上げるように水が溢れていた。● 数年前の大雨で三条公園東側の側溝が溢れそうだった、西側の側溝に落ち葉が溜まり水が溢れていた。
河川	<ul style="list-style-type: none">● 「ごおー」とする川の音がするとき。● 豪雨が半日以上継続し高座川や芦屋川が増水した。
その他	<ul style="list-style-type: none">● 暴風時に大木が倒木する可能性がある。● 前の家の石垣の水抜き穴以外から水が流れだしていた。● 聖苑へ向かう道の下は大きな排水管が通っているため、雨が降るとごうごうとすごい音がする。

土砂災害時の避難行動確認フロー

自宅は土砂災害警戒区域（イエローゾーン）内または、土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）内にある。

ない

ある

在宅避難が
可能です

災害の危険があるので
原則として立退き避難が必要です

自宅が警戒区域
の近くにあるなど
在宅避難に不安
がある場合

例外

土砂災害の危険があっても、十分堅牢なマンション等の上層階に住んでいる場合は自宅にとどまり安全確保をすることも可能です。

※ 土砂災害は木造家屋を流出・全壊させるほどの破壊力を有しています。必ずしも屋内で身の安全を確保できるとは限りません。

ご自身または一緒に避難する方は
避難に時間がかかりますか？

はい

いいえ

警戒レベル3「高齢者等避難」や
ご自身のタイミングを目安に
立ち退き避難が必要です
【市指定避難所】山手中学校、西山
幼稚園

警戒レベル4「避難指示」や
ご自身のタイミングを目安に
立ち退き避難が必要です
【市指定避難所】山手中学校、西山
幼稚園、状況に応じてその他の避難
所が開設

危険が伴い安全な場所への避難ができない場合

命を守る最善の行動をとりましょう。例えば、家の2階以上の山・崖から離れた部屋に移動したり、近隣の堅牢な建物に移動するなど少しでも安全な場所へ緊急的に一時退避・移動して命を守ってください。

各自の土砂災害時の避難行動

土砂災害時を想定した避難行動として、避難の判断材料について検討するとともに、「いつ」「どこに」「どのように」避難するのかを、あらかじめ検討しておきましょう。

確認！	【判断材料の入手】 (何が危険？大雨や台風の時に何を確認？)
いつ？	【逃げ時】 (何がどうなったら？)
どこに？	【避難先】 (どこに？どのルートで？) <昼 (明るい時) >
	<夜 (暗い時) >
どのように？	【避難する方法】 (誰と？歩いて？車で？) <昼 (明るい時) >
	<夜 (暗い時) >

災害時の情報入手

災害発生時や災害が見込まれる際には、芦屋市ホームページ、あしや防災ネット、防災行政無線など、さまざまな広報手段により防災に関する情報が発信されています。自ら率先して災害に関する情報を取りに行きましょう。

(1) あしや防災ネット

登録したアドレスにメールで届く、防災情報を確認できます。ashiya@bosai.netあてに空メールまたは、下記の2次元コードを読み取るとメールアドレスが表示されますので、空メールを送信すると登録できます。



「あしや防災ネット」かんたん登録コード

(2) 防災行政無線（屋外拡声子局スピーカー）

屋外にいる人へ向けた防災情報ツールです。災害が発生した際に避難の呼びかけなどの情報を聴くことができます。

(3) 緊急告知ラジオ

芦屋市役所の売店で購入することで、防災行政無線の放送を聞くことができます。電源を切っていても、緊急時には自動的に起動し最大音量で放送されます。

(4) エリアメール・緊急速報メール

携帯電話・スマートフォンに専用の警告音と共にポップアップで災害・避難情報などが表示されます。

(5) 市ホームページ

災害時にトップページから情報を確認できます。

(6) テレビ

dボタンを活用して、災害時の情報を確認できます。

(7) SNS

FacebookとTwitterで「芦屋市防災情報」と検索すると防災情報を確認できます。

今後必要な取り組み

芦屋市三条町では地区防災計画策定後も、地域として以下のような防災活動に取り組み、地域防災力の向上と災害時に実効性の高い対応ができることを目指します。

- 土砂災害時の避難を想定した実践的な訓練
- 災害時要配慮者が確実に避難できるための体制・ネットワークづくり
- 在宅避難訓練（家庭で電気・ガス・水道などのライフラインを使わずに24時間自宅生活を想定した訓練）
- 若い方々の防災活動への参画
- 地震を想定した防災活動や訓練
- 避難所運営のためのマニュアルづくりと避難所運営を想定した訓練

MEMO

芦屋市三条町地区防災計画
2022年3月策定

